

中国鉄道の始まり

Up to the beginning of a Chinese railroad

山口 るみ子
Rumiko Yamaguchi

2010 年末の中国の鉄道総距離は、約 8.5 万km、中国鉄道局の発表によると、2020 年末の総距離は約 12 万kmとなる計画であり、旅客専用鉄道の長さは、2010 年末の 0.5 万kmから 2020 年末には 1.6 万kmと 3 倍以上の敷設を目標としている。

現在はかくのごときであるが、中国において鉄道は慎重に導入され、緩慢でさえあった。当時の世界情勢のありようがそうさせたとも言える。

初めて鉄道が中国に敷設されたのは清代末期 1865 年のことである。北京でたった 500m の小鉄道をイギリス人商人が走らせたが軍の命令によって取り壊された。同年、上海でもイギリス商人が 1876 年に上海から呉淞鎮間を結んだ初の商業営業路線が開通させた。しかしこれも 16 ヶ月で清朝官吏に 285000 両で買収され、撤去された。なぜならばこれらは清朝政府の許可を得ずに勝手に敷設したもので中国人の手によるものではなかったからである。

このころの中国は外患内憂の状態にあり、外国人の手による鉄道敷設を認めてスタートさせてしまうとやがてはさらなる瓜分の危機を加速させてしまい、主権侵略の可能性を孕んでいた。

中国の近代は一般に 1840 年の阿片戦争に始まるとされる。これ以後中国は西洋列強と次々に不平等条約を結んで半植民地化の道をたどっていった。その中で中国は従来之国と国との関係のあり方についての姿勢を徐々に変えていかねばならなかった。価値観を変えることなく科学技術などを学ぼうとし、外国へ公使を駐在させるなど近代的な国際関係の舞台へ徐々に上がっていく中ではじめは鉄道敷設に反対していた清朝の官僚たちの中にも中国にも鉄道の必要性があると考えようになった。その結果河北省唐山で初めて中国人の手による鉄路が 1881 年に敷かれた。

1860 年代の清朝の官僚たちによる鉄道敷設は急務でないとする意見の数々中には一見荒唐無稽とも思えるようなものもあった。しかし、それは彼らの認識が非常識であったのではない。古くから熟成・確立させてきた中国の価値観、君と民との関係、自然との対し方は西洋のそれとは異なる。そのフィルターを通して鉄道という近代科学技術の賜物に対処しようとした時、その反応は当然のことであった。瓜分の危機が忍び寄る中、西洋列強に立ち向かうために国を立て直していかなければならない強い思いと根底にある華夷意識がそうさせたともいえよう。

その後、李鴻章の言に見られる中国人の主権によってつくられ、中国人に利するものでなければならぬとする姿勢が貫徹せず、鉄道の主権と利権を列強に奪われ、1890 年代末から利権獲得競争時代に入ってしまうのであった。